

主な発言

組織強化・拡大に向けて

▼JR東労組に加入し、さらに仲間を誘って加入を拡大することができた。日頃の対話から、家庭で過ごす時間の不足や資金への不満を知り、仕事と生活の向上を願う想いを引き出し議論してきた。信頼関係を築き、共に悩み、寄り添う姿勢が大切だ▼異動してきた仲間「他労組は選挙の時しか話されない」という不満から議論を深めた▼JR東労組の真面目さが伝わり加入に至った▼「脱退しなれば試験に受からない」との脱退意欲で一度離れたが、仲間の後押しで勇気をもって再加入した。社友会は会社の言いなりでたかかわらないが、JR東労組は交流やレクが楽しく、悩みを共有できる場がある▼バス乗務員にとって労働組合は安心して働ける環境づくりという役割がある。急ブレーキによる車内事故の罰金や処分を補填する「ドライブ・バス共済会」が心強くなり、どうしようもない時に助けてくれるという安心感が事故防止につながる▼転職してきた仲間に対し、交通労働協会の人とのつながりが加入を後押しした。趣味のつながりなど、多様な価値観を尊重しながら組織拡大をめざす▼「要求実現と組織拡大は高次元」との合言葉のもと、仲間との意見を交換し、粘り強くアプローチ。「生き残りを議論してきた。失敗を恐れず粘り強いアプローチが大切」職場の組合掲示板でJR東労組の存在を訴えてきた。加入後のビジョンを共有することが重要だ▼会社を辞めたいという仲間「JR東労組の加入に抵抗感はあるのか」を聞くこと「ない」との意思であり、即座に加入届を渡すことで加入に至った。イベントを通じて乗組員を前に出すことが組織拡大につながる▼リーダーが遠慮せず、実践の場をつくり、共に行動することが拡大の鍵。部会では対話・実践・点検・総括を繰り返して、実践を共有してきた▼会社と交渉し、メンバーを見やすく移設した。「入社おめでとう」初対面でもお声がけくださった「1」などの掲示をしている▼給与明細の勉強会やレク活動に未加入者を招き、JR東労組の雰囲気を感じてもらう。

過半数代表者選挙について

▼統括センター化で勝利は難しいが口癖になっていたがそれは誤りだと思いついた。主体性を持ち「勝つためにたたかう」ことが重要▼社友会からの候補者が同僚を悩ませる▼JR東日本グループのさらなる飛躍に向けた新たな組織と働き方について

JR東日本グループのさらなる飛躍に向けた新たな組織と働き方について

▼この間振りの回されてきた統括センター化を早々に解消するというのが、現場に寄り添わず、安全の匂いを含く感じない施策だ▼鉄道の子アムワークを崩壊させたり競争を煽る施策なら反対だ▼「生涯賃金は下がらない」という呼びかけだけで不安を感じる。対立点を明確にし、団体交渉で改善すべきだ▼テクニカルリーダー職の手当よりも主幹職のほうが高いのは鉄道業軽視のあらわれ▼医療職では、6つの区分に分けるのは鉄道や医療の現場になじまないとの声もあり、目先の利益に惑わされない仲間づくりが必要▼新施策は、①担務のミッシュン化、②定期昇給の金額抑制、③事業本部化で働き方が変わるという3点がポイントであり、夏の経営ビジョンと併せて注視すべき▼能力昇給の区分決定にあたっては、今回の施策で会社は「国鉄時代の残滓に向き合って乗り越えていこう」と語った「一掃」と発言した。会社の言葉と残滓とは

経営姿勢・会社施策に対して

▼初代委員長・松崎さんは「労使がお互い

発言した皆さん (敬称略・順不同)

【盛岡】 昆野彰夫、中城護、小松拓斗、大村博行、其田洋輔 【秋田】 佐藤智哉、下山陽平、小松賢吾 【仙台】 今野尊人、佐藤浩二、佐藤千明 【水戸】 後藤健一、神山実樹 【千葉】 長谷理生、佐々木誠、岩井誠 【東京】 田谷雅敏、飯沼昭仁 【横浜】 岡本光太、山崎貢市、川崎一弘、森田隼士、梶田優一 【八王子】 野中広俊、小関龍治 【大宮】 坂本務、根岸賢一、片桐朋希、唐紙将、佐藤行人 【信越】 和田勝也 【バス】 菅野正彦、岡修司 【運車】 谷口寛人 【工務】 高橋達治 【かんり】 山本政広 【きかく】 仁戸田茂樹 【医療】 高京子

初代社長の住田さんたちのことも指すのか。広域異動を担った先輩や国鉄改革を支えた労使を否定する姿勢に憤り▼要員不足で本社課長までもが乗務する実態。退職者が止まらないからこそ、夏季手当の重要性が増している▼連休と生活の苦しさに見舞われたり月給雪では、普段は除雪業務の無い社員も除雪を行ったが、①除雪用具不足 ②信号機管理のものを代用、③教育不足(分岐器除雪の注意事項が説明されず安全が確保)、④通勤時間(大波瀾の中「出勤時間に間に合わない場合は東北本部の判断」との返答に懲戒処分を想起)の問題があった。JR東労組本部からの支援金で耳当てなどを購入し大変喜ばれたが、会社による差し入れは雪よりも冷たい。会社はボナスで労を労うべきだが少なすぎる▼出勤困難の中、無理な進行指示で駅間での運行不能が発生、怒りの声が出ている。雪害対策を通じて団体交渉へつなげる▼ドア挟み事故で乗務員を外されたが、管理者は「支社が判断するまでは自分で仕事を探してほしい」と責任放棄。ITVの見えにくいこと問題。発生主義ではなく予防保全が必要▼連結器治具取付を乗務員が担う体制に変更されたが、教育不足で危険。「質問は聞くが意見は聞かない」姿勢に不信感▼ワンマン運転実施では不誠実な回答が続く、安全を守るには運転士の感性が重要。仲間の声を原音にたかたか。



2025JR総連春闘について

▼25春闘では全青年部員でメッセージ行動と絶対対話を実施し、今の経営姿勢に対して怒りを持つ仲間づくりを進めた▼春闘集会を通じて連帯の大切さを学び、横のつながりを実感している▼賞金はたたき取り「レールが勝てなければバスも勝てない」と土台であると確認した▼100%貫徹にこだわり、支部委員長の奮闘で新たな

青年部運動、平和運動、サークル活動について

▼青年部で沖繩平和研修を実施し、弱者が犠牲になる現実と国や権力の無責任さを学び、平和運動再構築の第一歩とした。9条連和研修も復活させていこう。

「被害者が加害者にされた!」 JR東日本武蔵小金井駅暴行事件について

▼ビラ配布を支部で地道に実施し、社会への発信を継続していく▼事件を知らない組合員をつくらないため絶対対話を貫徹。過半数代表者選挙ではJR東労組の意義や社友会との違いを明確にすることが大切▼菅に加入、会社の横暴に立ち向かってきた。

不当労働行為の撲滅に向けて

▼不当労働行為が不利益扱いが続く限り、ゆる「6項目」の実践を継続してきた。不当労働行為撲滅を団体交渉で求めたが、会社は調査を拒否。責任ある管理者から聞き取ったとした一方、事実を認めた管理者は処分され、認めない者は残っている。脱退し上がった。再調査を求めてようやく聞き取りが実施され、職場の雰囲気も改善された▼新たな組織と働き方は乗務員の賃金が減り、労使間の窓口も縮小される。JR東労組を排除するかなのような動きである▼18機関の活用を視野に入れる必要もあるのではなか。

「抵抗とヒューマニズム」を根底に組織の一体感をつくり出し、さらなる飛躍をかけた組合員と共に実践しよう!

総括答弁 書記長 高橋孝一

健全なJR東日本グループをつくり出そう!

JR東労組は結成以来、組合員・家族の利益のために「抵抗とヒューマニズム」の精神でたたかってきました。1989年の「安全メンポジション」で「責任追及から原因究明へ」を打ち出し、労使で安全を築いてきました。今の会社施策は安全・技術継承を前提とした納得できるものとはなっていません。「国鉄時代の残滓を一掃し、新しい会社をつくる」とする今回の施策では、労使議論や経営のチェック機能の形骸化、過度な競争や差別・偏見の助長、鉄道作業員、技術力や知識レベルを高めたいこと。そして、コストダウンのための「発生主義」ではなく「予防保全」に転換対してたたかいます。

また、冷たい会社対応と職場管理、曖昧な業務指示への怒りをバネに組織拡大に向けた実践や、懲罰的な社員管理、管理放棄を許すことなく原因究明委員会の議論で睨み返したとの発言がありました。利益優先、懲罰的な社員管理、隠蔽体質は今も変わりません。仲間との議論で安全への価値観を一致させるため、「8・8安全集会(仮称)を開催していきます」。

「被害者が加害者にされた!」JR東日本武蔵小金井駅暴行事件」については、事実の隠蔽と嘘・でっち上げの姿勢を明らかにしなければなりません。「知らない組合員をつくらないたたか」を貫徹の上で、社会的に広げたいと、組合員が未加入者に訴える実践が重要です。ビラ配布や会社姿勢に抗する議論での再加入を教訓に、裁判闘争勝利に向けてたたかいます。

新たな「組織再編」と「人事・賃金制度」に対して

これまで2回の説明会を行いました。今後は次期説明会も「基本要素をつくりたい」と勇気をもって組合員が語ってほしい。この想いと実践を組織的なものとして、職場のたたかいは基礎とした大宮地本のたたかいは全面支援すると共に、全地本で連携を深めます。

平和で安心して暮らせる 社会の実現に向けて

青年部の平和研修では、学んだことを発信することで、平和運動の意義や価値観を明確化し、実践する場をつくり組織拡大を勝ち取れたとの教訓的な発言がありました。また、8年ぶりとなる仙台地本で旅のプレゼントでは、2つの目的を掲げ、人への優しさを学び、取り組みの成功が自信にも繋がりました。

将来に希望を持てず退職を考えていると、声も少なくありません。まずリーダーが会社の狙いを考え、相互議論をつくり出し、要求を掲げて交渉力を高めることが課題です。定期昇給を軸とした新たな格差と分断、不利益変更反対、安全・健康・生活を共に実践することを述べ、総括答弁として守るため、全組合員でたたかおうとします。

緑の風では、主な発言のみを掲載しました。組合員におかれましては、大会代議員・傍聴者からの大会報告を受け、JR東労組の課題について議論を深めていただくようお願いいたします。